



# PHJ NEWSLETTER

ピープルズ・ホープ・ジャパン  
ニュースレター

## CONTENTS

### 海外事業

カンボジア：子どもの健康を守る仕組みづくり

ミャンマー：適切な母子保健サービスの利用に向けて

### 国内事業

#### 災害支援

南相馬心療カウンセリング1年目を終えて

#### 支援企業訪問

##### 株式会社イノメディックス

医療環境をトータルに支える

### 巻頭

いま、2つの国で  
起こっていることと、  
PHJの取り組み。



## PHJのお知らせ掲示板

こんにちは!お母さん募金

### カンボジアとミャンマーの安全なお産を支える 「月500円」のご支援。



カンボジアやミャンマーの女性が妊娠・出産で亡くなるリスクは、日本の30倍以上（UNICEF、世界子供白書2017）。医療環境や人材が整っていないミャンマーやカン

ボジアの農村での出産は、命がけともいえます。PHJは、女性がより安全に出産できる環境を整えるために、カンボジアとミャンマーの農村地で母子の健康にかかわる医療人材・地域住民への教育や、医療施設の整備に取り組んでいます。一人でも多くの女性が無事に出産してお母さんになってほしい—そんな願いを込めた「こんにちは!お母さん募金」は、毎月500円から、ご支援いただけます。

**ご支援の方法** > オンライン決済のみとなっております。PHJのホームページ「こんにちは!お母さん募金」のサイトよりクレジットカード（VISAまたはMASTERCARD）一口500円から、毎月お支払いいただけます。

### こんにちは!お母さん募金のマンスリーパートナー様からのメッセージ

#### 青柳 美樹 様

募金を始めたきっかけは、PHJ主催のカンボジアへのスタディーツアーの参加でした。母子保健ボランティア育成や女性たちへの健康教育、駐在員の時おりポロっと口にされるご苦労話など、生き生きとした活動を見せていただきました。自転車の寄付や栄養教育、助産師教育など、今年もカンボジアの母子保健活動の課題に一つつつコツコツと包括的に向き合ってくれたことを頼もしく感じます。世界の母子保健活動推進の一翼を担う活動に微力ながら参加できることを嬉しく思っています。



#### 潮 良子 様

勤務先の社長（旧ボルケーノ・ジャパン、現フィリップス・ジャパン）からのメール紹介でPHJの存在を知りました。Webを拝見し、当時のインドネシアでの母子手帳導入、普及の活動について関心を持ち、以来、継続的な募金で活動に参加しています。現在は、ミャンマーやカンボジアで、お母さんと赤ちゃんに、どのような「継続ケア」が提供されているのか、ニュースレターやプロジェクトの報告など大変興味深く読ませて頂いております。



◆ご支援いただいている方には、レポートを年2回と、PHJの季刊誌、アニュアルレポートを送付いたします。またPHJのオリジナルカレンダー1部も進呈いたします。

### 編集後記

カンボジアの看護師が小児保健診療サービス向上のトレーニングを受けた後、実際の診療で的確なアドバイスをしたおかげでやせていた子どもが健康的になった—というエピソードを本紙2ページ目に取り上げています。医療者一人のサービスレベルをあげることで子どもの健康の向上に寄与することが見え、教育の大切さを感じました。

発行：認定NPO法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

発行責任者：佐野廣二 編集人：南部道子 発行日：2020年2月17日

連絡先：〒180-8750 東京都武蔵野市中町2-9-32 TEL:0422-52-5507 FAX:0422-52-7035

ホームページ：<https://www.ph-japan.org/>

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



## PHJ の取り組み PHJ

### カンボジア

#### 新生児敗血症、早産・低体重、出生時仮死に対して

- ・妊娠中の危険兆候を早期に発見し、対処できるように妊婦健診の受診を促進する教育活動をすすめています。
- ・医療環境の整備、医療従事者の教育を通して適切な医療サービスの提供を目指しています。

#### はしかに対して

- ・予防接種受診率の向上をはかるため地域住民への啓発活動を行っています。

#### 下痢、急性呼吸器感染症、HIV 母子感染、マラリアに対して

- ・医療従事者による身体測定と栄養指導、小児疾病統合管理(IMCI)の技術といった小児サービスの質の向上を図っています。
- ・家庭や地域で子どものケアに関する知識の普及を行っています。

### ミャンマー

#### 産前・産後の出血に対して

- ・助産師や医師など医療従事者による分娩介助、医療従事者のスキルアップトレーニングを実施しています。

#### 感染症に対して

- ・保健センターの建設支援、分娩室の整備、保健施設的环境改善、保健施設での出産等を促進しています。

#### 合併症、直接産科的死亡に対して

- ・医療従事者（主に助産師）に対する妊娠中や分娩中の危険兆候の再研修、緊急時の迅速な移送に取り組んでいます。

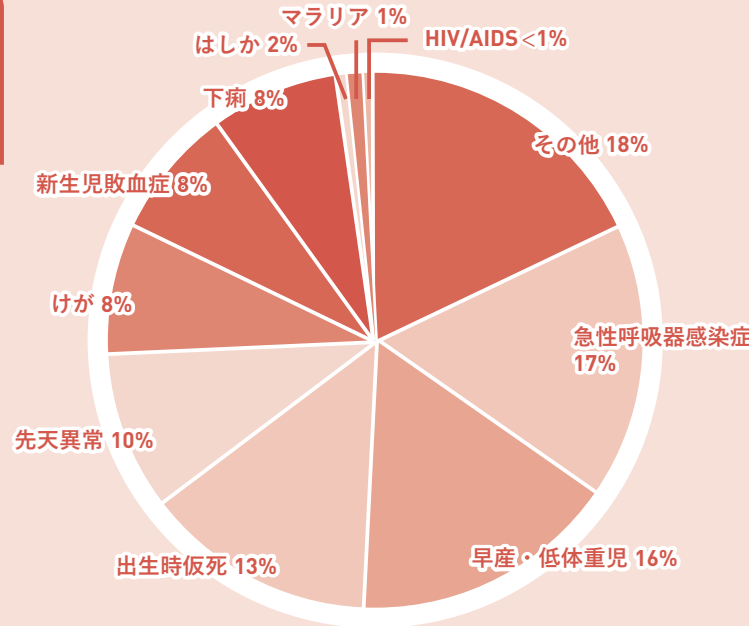
#### 妊娠高血圧症、間接産科的死亡に対して

- ・妊娠中の危険兆候を早期に発見し、対処できるように妊婦健診の受診を促進する教育活動をすすめています。

### 子ども達が亡くなるその背景

カンボジア政府は内戦で崩壊した医療制度を復興し、母子保健の改善を最優先課題として取り組んできました。カンボジアの医療レベルは改善傾向にあるものASEAN 諸国に比べて低い状況です。カンボジアの子どもたちが下痢・呼吸器系の予防可能な感染症で亡くなる割合が多いことがわかります。

カンボジアにおける5歳未満児死亡原因\*1



\*1 出典：United Nations Inter-agency Group for Child Mortality Estimation WHO2017

カンボジアでは1時間に1人、子どもが亡くなっている。  
(5歳未満)\*1

### カンボジア Cambodia

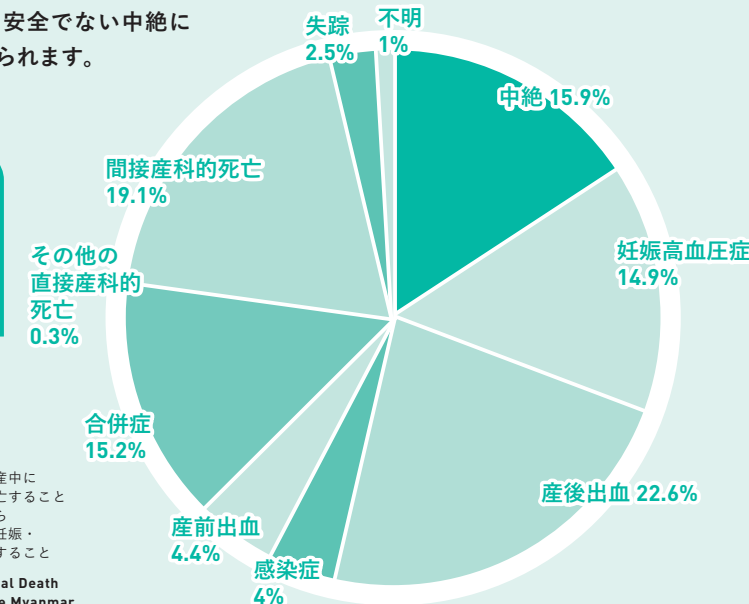
#### SDGsゴール 3

新生児死亡率、5歳未満児死亡率の削減

### 妊産婦が亡くなるその背景

ミャンマーでは2011年に民政移管して以降、世界各国の援助機関による支援や民間企業による投資が盛んになっています。一方で妊産婦死亡の約76%が農村地で起こっており、母子保健状況の改善のためにさらなる取り組みが必要です。他の途上国と同様に妊産婦が命を落とす原因は「3つの遅れ：①治療を受ける決断の遅れ②搬送アクセスの遅れ③治療の遅れ」によるものと指摘されています。なお、ミャンマーでは中絶は違法のため、安全でない中絶による死亡も多くみられます。

ミャンマーにおける妊産婦死亡原因\*3



直接産科的死亡：妊娠・出産中に妊娠・出産自体が原因で死亡すること  
間接産科的死亡：妊娠前から発症していた病気が障害が妊娠・出産の影響で悪化して死亡すること  
\*3 出典：National Maternal Death Surveillance and Response Myanmar, December 2018 2017 Report

ミャンマーでは1日に6.5人、妊産婦さんが亡くなっている\*2

### ミャンマー Myanmar

#### SDGsゴール 3

妊産婦死亡率の削減

あらためて知ってもらいたい

いま、2つの国で起こっていること、PHJの取り組み。

SDGsゴール3では「すべての人に健康を」というテーマで妊産婦死亡率の削減や、新生児・5歳未満児死亡率の削減が挙げられています。それでは、いまカンボジアとミャンマーはどのような状況で、何が原因で女性と子どもたちが亡くなっているのでしょうか。現地を直視している課題と、それに対するPHJの取り組みをお伝えします。

\*2 MMR Maternal mortality rate 2000-2017



保健教育に参加したお母さん



2児の母親 Dさん

PHJが開催する保健教育は楽しく、「子どもや家族が下痢にならないためにはどうすれば良いのか」は本当にためになりました。教わったことは実践しているので、私の子ども達は下痢をすることもなく、いつも健康です。更に栄養のある離乳食の調理実習にも参加しました。子ども達は慣れない離乳食の味に少し戸惑っていましたが、今ではすっかり慣れてくれました。栄養面も子どもの成長には大切なだと実感しました。

保健教育の研修を受けた保健ボランティア



クポッタゴン保健ボランティア Sさん

新任研修を受け、妊婦健診と産後検診がどれほど大切分かりました。研修後、家庭訪問をしているときに妊婦の足に大きな浮腫らしいものを見つけました。私は急いで保健センターに行って助産師に見てもらおうように勧めました。その浮腫がどれだけおなかの子どもの危険を及ぼす可能性があるのかを説明すると、その妊婦はすぐに保健センターに行き治療を受け大事には至りませんでした。今、その妊婦は元気に出産の日を待っています

IMCI研修を受けた保健センタースタッフ



クポッタゴン保健センター長 看護師 Lさん

IMCI研修を受けた後は苦手だった患者さんへのアドバイスができるようになりました。たとえば、あるお母さんが連れてきた2歳半の子どもはやせていて、非常に危険な状態でしたが地方病院に行こうとしました。その時、IMCI研修で学んだ「生後半年まで母乳で育てることが大切」ということを思い出し、とにかく母乳を飲ませるように伝え、「それならできると答えて帰りました。数か月して来院したその子は健康そのもので、身体測定をしたところ、体重は増加し標準の成長に戻っていました。

活動後の変化

カンボジアのコンポンチャム州で、保健センタースタッフと村のボランティアが支援ネットワークを形成し、地域の子どものケアに関する知識普及や実践促進を行いながら、5歳未満児の予防可能な死亡を削減し、子どもの健康な成長発達が促進されることを目的とした事業を進めています。保健センターでの予防接種、成長モニタリングなどの健診や小児疾病統合管理(IMCI)の保健サービスを提供できる体制づくりをコミュニティの参画のもと推進します。また地域住民に対しては栄養調理実習や保健教育を通じた子どもの栄養改善に向けて家庭における正しいケアの実践の増進を狙っています。

家庭でのケアに関する知識が向上



地域あるいは個別訪問での保健・栄養教育

保健センターとコミュニティの情報共有



母子保健/保健ボランティアの研修や保健センターでの定期会合

保健センタースタッフ医療サービス向上

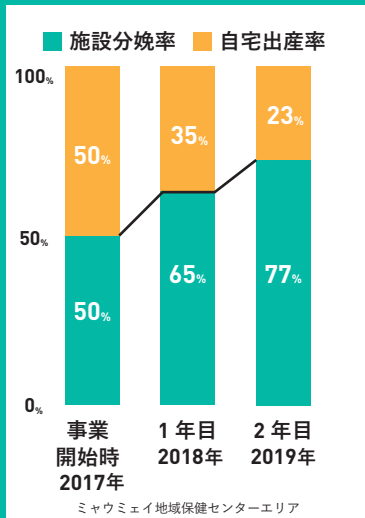


小児疾病統合(IMCI)などの研修

カンボジア  
Cambodia

子どもの健康を守る  
仕組みづくり  
子どものケア支援ネットワーク事業

施設分娩率の増加



保健教育を受けたお母さん



2児の母親 Jさん

初めて出産した時には村にはサブセンターがなく、自宅出産しました。自宅には電気や水道が通っていないため、井戸水を汲みに行ったり、家の清掃や食事の準備をしなければならず、とても大変でした。その後 PHJ の母子保健教育で施設での出産の安全性について知ったので、2019年3月に二人目の赤ちゃんを清潔なサブセンターで出産しました。また赤ちゃんが難しい状態(臍帯巻絡)だったので、助産師さんが24時間ケアしてくれたおかげで、元気な赤ちゃんを産むことができました。

卒後研修を受けた助産師



助産師 Bさん

26歳の初産の妊婦さんの分娩介助をしましたが、出産時の赤ちゃんは難しい状況(臍帯巻絡)で、なんとか母体から出てきた時、泣き声をあげず、息をしていませんでした。そこで、助産師トレーニングで習った新生児蘇生法を実施しました。すると、直後に赤ちゃんは泣きだし、呼吸を始めました。卒後研修で学んだ技術で、赤ちゃんの命を救うことができました。

活動後の変化

農村地域の女性が適切な母子保健サービスを適切なタイミングで利用することにより母子の健康状態が改善されることを目指しています。人材・設備が十分ではない中で、妊産婦が必要とするケアを確保するための互助の仕組み作りを目指しています。具体的には、母子が安全な環境で適切なサービス(妊婦健診、分娩介助、産後検診、新生児健診、予防接種、家族計画サービス)を利用できるように現地の保健局と連携して支援しています。



ミャンマー  
Myanmar

適切な母子保健サービスの  
利用に向けて  
母子保健サービス改善事業

妊産婦がサービスを受ける



妊婦・産後の女性への母子保健教育

ボランティアや医療者によるサービス利用の促進



母子保健推進員の育成

医療サービスの向上



助産師・補助助産師のスキルトレーニング





20 年には創業 90 周年を迎える株式会社イノメディックス様は、医療機器商社として医療機器や材料の仕入れや販売、修理や保守などをトータルに行っています。PHJ の賛助会員として支援いただき、東日本大震災をはじめ特定の活動に対してもご寄付をいただいています。



取締役 管理本部長 経営企画担当  
伊藤 亜紀子 様

支援企業訪問

医療環境を  
トータルに支える

株式会社イノメディックス



お客様の目指す医療をトータルに提案

多様な会社の医療機器を取り扱えるため、お客様のニーズに限りなく応えることができます。イノメディックスの経営理念は「メディカルをシステムで考える」。お客様のご要望にしたがって機械一台を単純に入れるだけでなく、その1台がこの病院のこの場所で最もよく機能するためにトータルで考えてご提案しています。お客様の目指す医療をかなえることで、患者様の健康に貢献できると考えているのです。



PHJ ミャンマー事業地で生まれたばかりの赤ちゃんとお産師

新生児医療分野にも貢献

高度急性期医療分野に携わる私たちはオベ室に強い会社といわれていますが、NICU といった新生児特定集中治療室に必要な医療機器も提供しております。生まれて間もない赤ちゃんのサポートは私たちが大切にしている分野なのです。以前と比べて企業の社会貢献として支援先は厳選するようになりましたが、アジアの母と子の健康を支えるピープルズ・ホープ・ジャパンを支援することは、私たちのビジネスにもマッチしていると考えています。

確実に役に立っているということ

東日本大震災の時に PHJ を通して寄付をしましたが、被災地に確実に役に立っているということが重要でしたので、信頼できる PHJ に決めました。活動を継続していくのは大変だろうと思いますが、私たちも PHJ と同様の医療分野でサービスを提供している会社として支援していきたいと思っています。

— 医療環境をトータルに支援するという株式会社イノメディックス様のポリシーは、現地のニーズに応じて地域を包括的に支援している PHJ の活動と通ずるものがあります。いつも PHJ の活動に対する深い理解のもとにご支援くださっていることを改めて実感できました。

PROJECTS IN JAPAN

堀有伸医師が院長を務める「ほりメンタルクリニック」で、臨床心理士による心療カウンセリングを行う南相馬心療カウンセリング支援事業は、2019年1月から開始し1年が経ちました。  
心療カウンセリングの当初計画は週1日6コマ（1コマ1時間）でしたが、1〜3月は38コマ、4〜6月は75コマ、7〜9月は114コマ、10〜12月は107コマと急増しました。（心療検査は1〜3月は20件、4〜6月は16件、7〜9月は14件、10〜12月は20件）  
事業開始当初からカウンセリングを受けていた方々が、長年のつらい症状が改善あるいは寛解したことが、コマ数急増に関連しています。開始当初から担当していた米倉先生に加えて新たに榊原先生、高橋先生にも参加いただき患者数増加への体制が整いました。この一年間の心療カウンセリングルーム直接支援費用は454万円とほぼ当初計画の通りとなっています。

堀院長は「トラウマに関連した症状を持つ患者の方々のカウンセリングを継続することができました。当初は、単純な1回のみでのトラウマを経験した方を中心にやってきましたが、次第に幼少期に虐待を受けたような複雑性のトラウマを経験した方、現在の生活環境の調整等が必要な方など、適応となる患者さんの幅は拡大しています。また、人間関係の基礎となる愛着に問題があり、信頼関係を結ぶことが困難な症例へのアプローチや、発達障害等の評価が必要な症例への治療的対応も、次第に充実させることができている」と1月の報告でコメントされています。  
PHJは第2年次にあたる2020年も心療カウンセリング支援を継続しながら、自立的な運営の方向性について関係者の方々と協議してまいります。

南相馬心療カウンセリング1年目を終えて

福島県 南相馬市

東日本大震災支援

アイロボットジャパンが  
南相馬の団体に  
ルンバを寄贈



前列左よりアイロボットジャパン 挽野社長、堀先生、PHJ 小田理事長、南相馬 門馬市長

南相馬心療カウンセリング支援事業に賛同したアイロボットジャパン合同会社（代表執行役員社長 挽野元、以下アイロボットジャパン）はロボット掃除機「ルンバ」15台を、PHJを通してほりメンタルクリニックをはじめ、南相馬市の主に心のケアを担う医療・福祉施設など11団体に寄贈しました。10月8日、これを記念して南相馬市役所にて寄贈懇談会を行いました。寄贈懇談会には南相馬市長、寄贈を受けたほりメンタルクリニックの堀院長ほか、10団体の

台風19号により被災した  
南相馬へ飲料水の支援

10月12日に日本に台風19号が上陸。全国各地で甚大な被害を受けましたが、福島県は特に被災地域が多く、南相馬周辺では川の氾濫により断水の被害がでていました。そこでPHJはほりメンタルクリニックと、心のケアに関する協力団体に水の支援をするため、10月21日に飲料水10ケース（500ml x 240本）をPHJ代表の佐野と横尾が現地まで配車しました。



飲料水の配布先：原町学園にて

代表の方が出席し、それぞれの活動の紹介と寄贈への感謝の言葉をいただきました。